

モバイルサポートに聞く・セールス支援アプリ「@FUNDタブレット」の特徴と活用のポイント

タブレット端末の活用により 効率と正確性の両立を実現する



近

年、地域金融機関において、投資信託の購入・

ついてレポートする。

解約等の手続きにタブレット端末を活用するペーパーレス・事務効率化の動きが活発化している。効率化という面だけでなく、営業推進面においてもタブレット端末を活用する場面は大きく拡大。様々なツールが開発されている。

本稿では、株式会社モバイルサポートが提供するタブレット端末向けのセールス支援アプリ「@FUNDタブレット」の特徴とともに、タブレット端末を活用した投信提案のポイントに

@FUNDタブレットは、りそなホールディングスや千葉銀行などで導入されている投資信託のセールス支援アプリ。マーケットや投資信託の情報などに加え、自行車の取扱ファンドを利用したシミュレーションにより「投信積立」の魅力が分かりやすくお客様に伝えることができるアプリケーションである。「どんなにたくさんさんの情報や優れた機能があっても、操作が難しくかったり動きが遅かったりしては使ってもらえません。」@F

UNDタブレットは、ユーザーインターフェイスを分かりやすくルール化するとともに、お客様との話の流れを止めないようコンテンツ同士をリンクさせることで、何かを説明する都度TOP画面に戻る必要をなくしています。アプリケーションですからサクサク動きまわすし、通信環境がない場所でも気にせず利用できるため、投資信託の販売担当者をサポートする強力なツールになると思います（モバイルサポート・河合行宏代表取締役社長）

国別ガイド、金融電卓など様々なコンテンツを備えている@FUNDタブレットだが、特に注目したいのは、ファンド選択に役立つ様々な機能（図表）と、投信積立のニーズ喚起につながる紙芝居機能（プレゼンテーションツール）である。まずは、商品提案における各種機能の活用方法を見ていこう。

期待リターンとリスク許容度で絞込み

@FUNDタブレットでのファンド検索は、取扱ファンドを投資対象や決算（分配）回数、

●投資信託コンテンツの主な機能

種類	詳細項目	概要
投資信託情報	基準価額一覧	最新の基準価額、純資産総額、直近分配金、騰落率などを一覧で閲覧、項目でのソートができる
	ランキング推移	取扱ファンドの騰落率と純資産総額増減（期間6カ月、1年、3年）の直近6カ月のランキング推移が分かる
	ファンド詳細情報	チャート、運用実績、商品概要を表示。他コンテンツへの導線を確認
	マイファンド	お客様の保有するファンドをマイファンドとして事前に登録しておくことができる
ファンド検索	詳細検索	ファンド分類、投資対象国、決算回数、運用会社、取引種類から検索・抽出できる
	ファンドランキング	月間販売ランキング（店頭、インターネット）、運用結果（手数料込）、純資産増減の各種ランキング結果を表示
	値動きから選ぶ	該当期間における最大上昇率と最大下落率を設定することでファンドを絞り込める
	注目ファンド	金融機関が選択したファンドを注目ファンドというカテゴリで表示
比較	比較	選択したファンド（最大5つ）で、申込情報、運用実績、リスク・リターンの比較ができる。ファンド間だけでなく経済指標とも比較できる
ファンドシミュレーション	一括投資シミュレーション	複数ファンド（最大5つ）に、それぞれの金額で投資した場合の投資結果をシミュレーションできる
	積立投資シミュレーション	複数ファンド（最大5つ）に、それぞれの金額で毎月投資した場合の投資結果をシミュレーションできる
	投資手法シミュレーション	一括投資（分配金再投資）、一括投資（分配金受取）、積立投資での投資結果をシミュレーションできる

販売額や純資産増減などのランキングから絞り込んでいく一般的な方法だけではない。お客様の期待リターンとリスク許容度から、分かりやすくファンドを絞り込むことも可能だ。

この機能は、お客様の期待するリターンを「最大上昇率」、許容できるリスクを「最大下落率」として入力することで、その条件に合うファンドが絞り込めるもの。お客様のニーズに沿った商品提案をするための、心強い味方である。

当然だが、ロースク・ハイリターンという条件を入力しても、それに見合うファンドはない。「リターンを望むなら相應のリスクをとる必要がある」ことを伝えるためにも効果的なツールといえよう。

充実した比較・シミュレーション機能にも注目したい。@FUNDタブレットでは、選択したファンド（最大5つ）の運用実績やリスク・リターンを比較

できることに加え、選択したファンドの値動きに影響を与える経済指標との比較もできる。例えば日本株ファンドについて、「TOPIX」や「日経平均株価」などを選べば、TOP画面に戻ることなくファンドの値動きとの比較が表示されるため、スムーズな流れで変動要因について説明できるわけだ。

複数ファンド（最大5つ）に分散投資した場合のシミュレーションができることもポイントである。一括投資だけでなく積立投資をした場合のシミュレーションもでき、分散投資の効果を理解してもらうにはうってつけの機能だろう。

さらに、同じファンドに一括投資して「分配金を再投資した場合」と「受け取った場合」、そして「積立で投資した場合」の比較シミュレーションも可能だ。分配金再投資の意味や受け取った場合との違いについて、具体的な数字を示しながらお客